

第29回 あらかわ俳壇

投句数	998句(一般の部660句／小中学生の部 338句)
投句者数	426人(一般 129人／小中学生 297人)
兼題	沈丁花、草笛、時鳥、当季雑詠
選者	佐々木忠利 氏 (荒川区俳句連盟会長)
期間	令和5年4月1日(土)から6月30日(金)

一般の部	特選	草笛の下手な音楽教師かな	恋瀬川三緒さん
	選評	草笛は草の葉を唇にあてて笛の様に吹くものだが、確かに音楽教師は下手かも知れない。草笛を吹く事が出来る人が、音楽の知識や技術を持っているとは限らないと感取される。ある程度納得も出来て面白い句。	
	入選	草笛を久しく吹かず老いにけり	大越源一さん
		AIの声のニュースや水中花	竹野美恵子さん
		時鳥メガソーラーの続く村	田中礼子さん
		梅雨の来て長逗留の過客かな	三田忠彦さん
		苦屋へと延ぶ道の辺の豆の花	安田蝸牛さん
	佳作	草笛の風に音符のありにけり	山田知明さん
		カンタービレ草笛響く瀬音かな	森のみどりさん
		アポロンの求愛拒む沈丁花	野中泰風さん
		八十路過ぎにきびがふたつ山笑う	近藤悦子さん
		墨堤に草笛競ふ君のゐて	木下君穂さん
		然と聴く声に覚への時鳥	宥光さん
		草笛や老の未来の前向きに	尾久西さん
		聞き分けの易しと生徒ほととぎす	高仲絹さん
		沈丁の香りに暮れる札所道	木村隆夫さん
		過去忘れ今を咲ききる沈丁花	加藤多作さん

小中学生の部	特選	ふとみれば思い出映るしゃぼん玉	第四峡田小学校6年・横溝凜さん
	選評	野口雨情のシャボン玉の童謡がふと脳裏を横切る。しゃぼん玉と子どもが遊んでいる情景を旨く掬い上げた見事な句。何げなく見ればシャボン玉が飛んでいる僅かな時間帯でも思い出が重なるように映りこまれている。	
	入選	クラスがえドキドキワクワク春の空	第四峡田小学校6年・玉山りんさん
		通る道草木があおあおしげってる	第三峡田小学校3年・知名藍弓さん
		うぐいすの鳴きごえきこうと耳すます	第四峡田小学校5年・藤田義七朗さん
		甲子園さいごの夏でやくどうだ	瑞光小学校6年・小笠原正瑠さん
		時鳥命の声を大空へ	瑞光小学校6年・山口武流さん
	佳作	桜の下心境ゆるがすクラス替え	第四峡田小学校6年・浅村龍之介さん
		草笛を友と吹き合う帰り道	第六瑞光小学校5年・塩原美波さん
		雪がある一度売りたいこの白さ	瑞光小学校5年・木村しょうまさん
		わたの上その上歩き春探す	第四峡田小学校5年・井艸多聞さん
		うめの花ひとつひとつが星みたい	大田区立雪谷小学校2年・岩田莉子さん
		桜散り静まりかえる登下校	瑞光小学校5年・小倉暁さん
		桜の木希望の光さきほこる	第四峡田小学校6年・小池奏さん
		さぼってるてるてる坊主雨が降る	第四峡田小学校5年・入方優悟さん
		草笛が風と共に歌合戦	第三瑞光小学校5年・水野結珠さん
		天の川星でつないで糸電話	瑞光小学校6年・かりんさん

第30回 あらかわ俳壇

投句数	1,267句(一般の部1,004句／小中学生の部 263句)
投句者数	556人(一般 318人／小中学生 238人)
兼題	キャンプ、西瓜、蜻蛉、当季雑詠
選者	対馬康子氏(現代俳句協会副会長)
期間	令和5年7月1日(土)から9月30日(土)

一般の部	特選	蜻蛉来る水面の中の夕空に	木幡忠文さん
	選評	蜻蛉と夕空はよく詠まれています、ここでは水に映っている空です。水面が小さな結界のようになって茜色の空が煌めきます。そこに来る蜻蛉のほの寂しさが、心の奥にある夕空へと誘うのです。	
	入選	砂入れて戻る大波あかとんぼ	田中礼子さん
		足もつれ星にキスするキャンプかな	野中泰風さん
		人類の潔しとは水の秋	乗松大翔さん
		ヴィオロンは戦禍に潤み鬼やんま	花瀬玲さん
		秋の声だけ霧のうつわに注ぐ	南方日午さん
	佳作	燃えながら雨をかぶりし鶏頭花	太田陽子さん
		銀杏散る運命なんかに縛られて	大野美波さん
		ラムネ瓶栓抜自分解放中	小林寛久さん
		手でちぎる荒ぶる父のキャンプ飯	齊藤寿美子さん
		布街のファッションショーや小鳥来る	竹野美恵子さん
		谷地に採るさには咲きたる花茗荷	安田蝸牛さん
		おとうとの散髪終わり西瓜食む	たんじろうさん
		はぐれしか擬宝珠の上の赤とんぼ	若林清子さん
		空席を探していたる蜻蛉かな	山田知明さん
		理科室で調理もしたる震災忌	神谷邦男さん

小中学生の部	特選	夏の蝶月の使いが舞いおける	第四峡田小学校6年・鎌田麻央さん
	選評	夏は揚羽蝶が華麗に飛んで目を引きませんが、夜になるとその羽を閉じてじっとしています。しかし、この句は眠らない幻想の蝶。夏の深い森に舞い降りる「月の使い」とは古代を思わせ、神秘的です。	
	入選	月のぼりともるほたるの通り道	第二峡田小学校3年・河原瑞希さん
		晩夏の夕秋津の朱色点々と	八王子市立陵南中学校3年・雷輝さん
		流れ星きれいな空を旅してる	第二峡田小学校4年・堀江暖花さん
		夏まつりチョコバナナたべくちひげだ	第六瑞光小学校3年・一柳来未さん
		海水浴海にあふれるたからばこ	第四峡田小学校6年・平野惺大さん
	佳作	シイタケが鳥につつかれなくなった	瑞光小学校3年・富井隆太さん
		あきのよるならぶほうせきしんごうき	第二峡田小学校1年・長谷川豪さん
		もみじにはそだったころのこってる	瑞光小学校3年・細澤環さん
		街路樹や哀れな蝉が葉のように	淑徳中学校1年・琉太さん
		大変だ人生左右夏期講習	第四峡田小学校6年・戸塚結香さん
		羽休めいこうとんぼの梢かな	開成中学校1年・桑田直希さん
		あめんぼが一回飛んで夏はこぶ	雪谷小学校2年・岩田莉子さん
		汗とばし今か今かと遊園地	赤土小学校4年・七條沙彩さん
		プールの日ゆらゆら浮いて空見える	第四峡田小学校6年・重文字愛々さん
		森の中夏の夜空に星の海	尾久西小学校4年・野村進さん

第31回 あらかわ俳壇

投句数	992句(一般の部 801句／小中学生の部 191句)
投句者数	290人(一般の部 142人／小中学生の部 148人)
兼題	山粧う、冬日和、聖夜、当季雑詠
選者	佐々木忠利氏(荒川区俳句連盟会長)
期間	令和5年10月1日(日)から12月31日(日)

一般の部	特選	空磨く天使のはしごよ冬日和	野中泰風さん
	選評	雲の切れ目から差し込む光の帯。まるで天使が下りてくる梯子の様だと言う処から天使の梯子と名前がついたと言う。穏やかに晴れた冬の日を迎えるその瞬間、私達は幸せを感じる。天使の梯子が微笑みかけている様だ。	
	入選	菰樽を開けて言祝ぐ新酒かな	安田蝸牛さん
		幸せをツリーに飾る聖夜かな	川越のしよびさん
		廃校にタイヤの遊具山粧う	近江堇花さん
		木簡の文字くつきりと冬日和	木村隆夫さん
		肝心なことには触れず日向ぼこ	鈴木真理子さん
	佳作	オルガンの余韻にひたる聖夜かな	小池恵美子さん
		吊橋や揺れて極楽山粧う	加藤多作さん
		院展を出れば乃木坂冬日燦	池田知子さん
		秋薔薇荒川線をめぐる旅	尾高好子さん
		山粧う名のある山もない山も	鈴木トキさん
		山粧う行くあてもない地図を手に	中島敏子さん
		山粧う旅でおち会う三姉妹	真野詔子さん
		若き日の我に文書く聖夜かな	木村弘美さん
		父の齢はるかに越える師走かな	影山博さん
		いまだ佳き句は詠めざる吾漱石忌	海神瑠珂さん

小中学生の部	特選	流れ星キラキラひかる願い事	第四峡田小学校6年・山本瑚菜さん
	選評	空一面に星が、まるで宝石の様に輝いて、その星空を見ていると、運が良い時だけキラキラと光りながら空から降ってくる流れ星が見れるのですが、キラキラと強調された処からドラマが始まる様ですね。見事な描写力です。	
	入選	すず虫の奏でる合唱奥床し	第四峡田小学校6年・ハウイトブロディーさん
		おかあさんおでん食べたいリクエスト	第七峡田小学校3年・竹中優衣さん
		じゅく帰り草の中から虫の声	第四峡田小学校6年・森奏真さん
		落ちていく雨一滴と草紅葉	第四峡田小学校6年・長沼来実さん
		ふと見ると透けて輝く氷柱かな	北豊島中学校3年・中村心優さん
	佳作	登下校金木犀のいい香り	第四峡田小学校6年・久保田乃愛さん
		大磯の海から望む星月夜	第四峡田小学校6年・井上慧一さん
		スケートを池の上でもしてみたい	第七峡田小学校3年・佐々木湊さん
		からっ風きょ年の思い出はこんでる	尾久小学校4年・小馬七太さん
		霜柱土にたくさん光ってる	第七峡田小学校3年・小野碧さん
		祖母の家金木犀の良き香り	第四峡田小学校6年・白尾沙樹さん
		秋の夕炎のような赤い雲	第四峡田小学校6年・堀口有里紗さん
		雪だるま今日限りの友達だ	北豊島中学校3年・浦山愛美さん
		冬の空夕日をながめ元気だす	第七峡田小学校3年・渡部遥さん
		こっち見てこっち見てよと山粧ふ	倉敷市万寿東小学校5年・田村英さん

第32回 あらかわ俳壇

投句数	1112句(一般の部 802句／小中学生の部 310句)
投句者数	人(一般の部 人／小中学生の部 人)
兼題	初夢、雲雀、流水、当季雑詠
選者	対馬康子氏(現代俳句協会副会長)
期間	令和6年1月1日(月)から3月31日(日)

一般の部	特選	初夢を刻み続ける腕時計	近江堇花さん
	選評	元日の夜に見る初夢が吉夢なら、いい一年が送れそうな気がします。一年の初めに期するものがあつたのでしょうか。分身のように自分とともに時を刻んでいく腕時計に、初夢の続きの時間が流れます。	
	入選	流水に音無く帰る沖ありぬ	折勝家鴨さん
		かたことの歌ばびふべぼひばりかな	琢磨さん
		初鏡小さな嘘をつきにけり	岡崎実さん
		雲雀野や古墳に残る百済の矢	宥光さん
		戦禍にて雲雀や見入る悲しき目	野中泰風さん
	佳作	初夢や会えぬ人らに囲まれて	大越源一さん
		豊穡の海を支える流水群	斉藤寿美子さん
		草笛の音色は遠し隅田川	宗京容子さん
		日も風ものもせを行けばどこか春	安田蝸牛さん
		初夢の遊泳禁止区域かな	佐藤研哉さん
		バス停に椅子がある町雲雀啼く	たんじろうさん
		ふる里は曇り時々雲雀かな	松田寛生さん
		流水や海に冷たき星を撒く	えりんぜさん
		確信も自我も手放し雪解ける	金森マユさん
		春休み袖のぼわんとしてあたり	香田ちりさん

小中学生の部	特選	目の色は地球の色よ揚雲雀	倉敷市立万寿東小学校5年・田村英さん
	選評	春の朝、空高く鳴き昇る雲雀。その声ではなく目の色に注目した、スケールの大きな句です。この地球の色は、戦禍に傷ついた暗い土の色ではなく、宇宙から眺めるような美しい青でありますように。	
	入選	椿落ちピーターパンのままでいたい	茨城県立下館第一高等学校附属中学校1年・雪椿さん
		雪の夜足音にみな耳すます	第三峡田小学校5年・藤田紗希さん
		ゆっくりと空へと消える息白し	第四峡田小学校6年・増山ユリカさん
		制服の採寸いそぐ春の暮	北豊島中学校3年・青山文緒さん
		消しゴムをボトルにつめるシジミチョウ	一燈園小学校3年・太田慈さん
	佳作	すきま風お化け出てきたはださむい	第四峡田小学校6年・伊勢崎菜桜さん
		はつゆきだひらひらふって手につもる	第七峡田小学校3年・かさいゆいさん
		風の色ちがって見える冬休み	第四峡田小学校6年・上三垣里音さん
		冬休み休まないでよこたつさん	第三峡田小学校3年・上代佐理さん
		幸せを犬と一緒に過ごす冬	第三峡田小学校5年・紀平豪志さん
		屋上で母さんと見た冬の月	第七峡田小学校3年・平はやとさん
		しずむ夜しわすの月は美しき	第三峡田小学校3年・知名藍弓さん
		三秒前新しい年はじまるよ	第三峡田小学校3年・中島美紗さん
		雪降らぬ草木は悩むねむれずに	第三峡田小学校5年・稲葉元那さん
		花が泣き音を奏でる春の雨	北豊島中学校3年・清水咲さん